

特集
Special Section

揺るぎのない 存在感ある大学へ

国際的な研究・教育拠点として

森田潔氏が岡山大学の学長に就いてから1期3年間が経つ。
大学運営の方向性を示した「森田ビジョン」を掲げ、
国際的な研究・教育拠点としての「美しい学都」を目指して
次々と大学改革を図ってきた。
大学を取り巻く環境が目まぐるしく変化する中で、
今後は岡山大学としてより強固な存在感の確立が求められることになる。
1期目から2期目へ。森田学長がさらなる飛躍を誓う。





Junko Fukutake Terrace (通称：Jテラス) のイメージ



L-café



校友会トレーニング棟と体育系クラブ棟



森田ビジョンの成果と課題

学長に聞く。

森田潔学長が学長1期目の任期を終える。岡山大学はこの3年間で学長の描いた大学像に近づくことができたのか。1期3年間の成果を振り返るとともに、2期目に向けた決意を聞いた。

「学長就任時に岡山大学を『巨大船』に例えられていたが、この3年間でどのくらい前に進んだと考えているか。」

「巨大船」は想像していたよりも重く、まだ前に進んだというイメージはないが、この3年間でやってきたことは間違っていないし、触先を変えていく作業はできたと思っっている。大学は一般企業と違って切り捨てられるところはなく、岡山大学において全7研究科、11学部の存在価値はそれぞれにあり、みんなが頑張らなければならぬ。その中で学内のトップランナーには岡山大学の名前を挙げてもらうことも必要であるし、そのために投資を優先することも理解していただきたと思っっている。

「森田ビジョンで掲げていた、大学と都市・地域が連携した新たな『美しい学

津島地区には校友会のトレーニング棟と体育系クラブ棟を新設し、留学生や学生の交流の場となる言語カフェ(L-café(エル・カフェ))も開設。学生が集える場所が増えた印象だが。

美しいキャンパスづくりの流れの中で校友会の施設も整備した。正課外活動は学生にとって大学生活の中で大きな割合を占めており、一助になったのではないかと思っっている。「L-café」は大学会館にあった「イングリッシュ・カフェ」を一般教育棟に移転させて開設し、スペースは約3倍と広くなった。外国語会話実践の場としてのニーズも大きく、入場者はあつという間に1万人を達成した。以前本誌特集の企画で学生らと意見交換した際、学生から「授業が終わっても集まれる場所がほしい」という声が上がったが、その意味では役目を果たせているように思っっている。

「L-caféは『グローバル人材育成特別コース』の学生の拠点にもなっている。

真の国際化を目指す中で、同コース新設はわれわれの賭けでもある。入学直後に全学部の中から英語の試験・面接を経て選抜された学生はそれぞれの学部にも所属しているわけで、この取り組みを成功させるためには、学生らが自由に集まれ、自然に国際交流できる場所をつくらなければならないと思っった。現在50人を選抜しているが、将来的に200人まで増やしていきたい。

「国内の大学ランキングでトップ10に入ることを目標に掲げていたが。」

「この大学も努力しており、並大抵の努力では難しいと感じている。少なくとも研究部門の充実を図らなければならぬと感じ、URA(リサーチ・アドミニストレーター)を独自予算で採用。その努力や研究が認められ、文部科学省の

都一の創設はどのくらい進展したか。

まずは地域における岡山大学の存在価値を高めることを目的に、知的拠点となる岡山大学地域総合研究センター(AGORA)を設置した。岡山県内の自治体、経済界、各種団体などと協働してさまざまなプロジェクトに活発に取り組みしており、成果はあるが、さらに学都構想を具体化させていきたいところ。学生が市民と対話しながら地域の課題解決を目指す「まちなかキャンパス城下ステーション」(岡山市北区石関町)も効果と存在感はあるように思っっている。岡山駅周辺に2つ目となる医療系の学外拠点が開設できないか検討している。

美しく気品あるキャンパスの創成についてはどうか。

建築家ユニット「SANAA(サナア)」

「研究大学強化促進事業」の支援対象機関に採択された。今年度から10年間のプロジェクトなので非常に大きな予算となり、5年後には予算の見直しで増額もあり得る。岡山大学病院も厚生労働省の「臨床研究中核病院整備事業」に採択されており、この2事業に選ばれているのは国立大学では旧帝大と岡山大学だけ。5年後、10年後にはトップ10入りするエネルギーをもらったように思っっている。来年度は文部科学省の「スーパーグローバル大学事業」の支援対象30大学になんとすることも選ばれる。

「千葉、新潟、金沢、長崎、熊本各国立大学とともに6大学で包括的連携協定を締結したが、その狙いとは。」

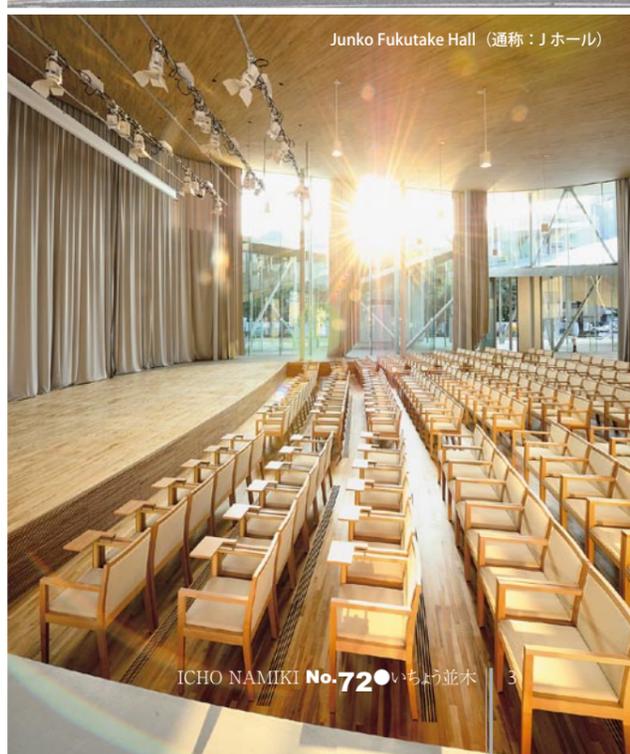
学長就任当初は旧帝大に仲間入りしたいと思っっていたが、それは間違いだつた。岡山大学には旧帝大や地方の大学とも違う地域の中核大学、いわば「地域大学」としての役割があると実感した。「地域大学」の連携を通じて教育・学術研究の機能を強化するとともにグローバル人材育成を推進していきたいと思っっている。

「岡山大学同窓会を再編した『岡山大学 Alumni(全学同窓会)』を設立した。」

各学部同窓会の活動に温度差があり、全学同窓会として岡山大学同窓会があったもののアクティビティが低かつた。私としても岡山大学の卒業生というより医学部の卒業生という立場が強かつたが、皆が岡山大学の卒業生だと胸を張って言える雰囲気づくりのためには、全学同窓会なる組織をもっと力強いもの



まちなかキャンパス城下ステーション



Junko Fukutake Hall (通称：Jホール)

の妹島和世氏、西沢立衛氏を学長特別補佐として起用し、助言を受けながら進めてきたが、私自身、この3年間でキャンパスがもう少し変わると思っっていた。ただ、スピードは遅いものの、鹿田地区には「Junko Fukutake Hall」(通称：Jホール)ができ、津島地区も学生会館周辺が整備され交流広場ができ、西門周辺の垣根もなくなり、少しはインパクトがあったのではなからうか。津島地区には来期早々に「Junko Fukutake Terrace」(通称：Jテラス)もできる。南北道路周辺の垣根も撤去し、道がキャンパスを分断している現状を、キャンパスの中を道が走っているような雰囲気にした。鹿田地区と津島地区の一体感が私が学長になる前よりは増したように思っっているが、循環バスを運行するなど両地区の行き来がしやすくなるような手段も考えたいところだ。

しなければならぬと思っった。卒業生に加え、在学生や教職員、研究生らも構成員となるわけで、皆に岡山大学への愛を持っていただきたい。そして、岡山大学が取り組む事業を人的・資金的にサポートしていくことのできる組織の必要性も感じた。卒業生らの全国的なネットワークを生かした在学生への就職・留学支援、正課外活動支援なども強化していきたい。

「来期3年間に賭ける思いは。」

少子化による人口減により大学を取り巻く環境は厳しい。森田ビジョンは大学存続を前提にしたものであり、大学の存在自体が問われている中で岡山大学が生き残っていくためには、森田ビジョンではなく、岡山大学憲章をつくらなければならないと考えている。グローバル化に対応できる実践力を持った人材を育成するとともに研究力を強化し、トップ10に入るなど現実的な成果も出しながら、来期3年間で揺るぎのない存在感を構築していきたい。

Interviewer



副編集長 原田 和往 (法学部准教授) | いちよう並木編集長 後藤 邦彰 (工学部教授)